

生物暦 Vol.8

～いきものこよみ～

国立環境研究所 生物季節観測研究チーム 2024年6月27日発行

1.ごあいさつ

調査員の皆様、いつも生物季節モニタリングにご協力いただきありがとうございます。モニタリングチームが4月から新体制となってから、初めて発行するニュースレターとなります。

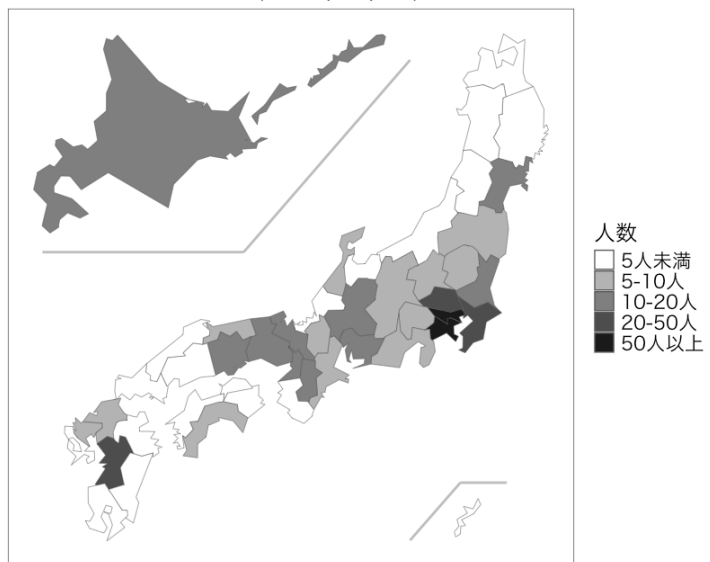
今年の冬から春にかけての気候の変化には、戸惑った方も多かったのではないのでしょうか。2月は全国的に暖かくなりましたが、3月には寒い日が続き、4月になると例年よりも気温がかなり高くなりました。特に3月の寒い時期とサクラの開花時期が重なったことで、いつもより開花が遅かったと思われた方も多かったのではないのでしょうか。さらに全国的に梅雨入りが遅れていることもあり、初春から初夏にかけて出てくる生き物たちの様子が例年と違う…と感じている方もいるようです。地道な観測を継続することで、気候の変化に生き物たちがどのように応答するのか、ということへの理解が進むことを期待しています。

2.調査員の参加状況

現在、市民調査では、個人調査員としてご登録している方々は486名、企業や学校などの「組織」としてご登録している団体が22となり、全国では530人以上の方々が観測を行っていることとなります(右図)。また、昨年に地元のメディアで取り上げていただいた熊本県では、多くの方が新規にご登録してくださいました。今後も引き続き調査員の拡充を目指して情報発信をしていきます。

これまでご報告いただいた観測データの総数がついに5,000件を超えました。ありがとうございます。次回のニュースレターではその内訳を報告予定です。

都道府県別の調査員数 (2024/06/21)



3.生物季節モニタリングの成果が研究論文になりました！

観測項目の1つである「アブラゼミの初鳴き日」について、昨年度までモニタリングチームのメンバーだった辻本翔平博士らによる解析結果が学術論文として公表されました。これには、皆様からご報告いただいたデータも活用しています。気温上昇のような気候の変化が生物の活動日に影響していると、皆様も感じていることと思いますが、では一年のうちのいつ頃の気候の変化がアブラゼミの初鳴きに影響があるのでしょうか？辻本博士らの分析により、前の年の盛夏から初冬の気温が高いとアブラゼミの初鳴き日が早まる傾向があることが示されました。弊所のプレスリリース「市民参加型調査の結果を活用し「セミの初鳴き日」に影響する要因に迫る」(<https://www.nies.go.jp/whatsnew/2024/20240624/20240624.html>)もご覧ください。

活動へのご意見・お問い合わせの窓口

E-mail: ccca_phenology@nies.go.jp

Tel: 0298-50-2375 担当：松島・西廣